

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第131号

〔2022年4月発行〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。

JAMより、2022年4月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

現地（メソト）から

国内から

国際保健医療協力のなかで（51）

編集後記

次号の予定



現地（メソト）から

【メソト：有高奈々絵】

2月に8か月ぶりにメソトに戻りました。メソトは表面的には穏やかで、バンコク同様、昨年に比べて外国人や観光客と思しき人々が少し増えた印象です。しかし現地の報道によれば、ミャンマーでの戦闘や迫害を避け、秘密裏に国境を渡ってメソトに潜伏中のミャンマー人は数千人にのぼるとされます。カレン州のLay Kay Kawでは昨年12月以降国軍とカレン族武装勢力との間で断続的に戦闘が起き、3月末にはメソトから車で30分ほどのポプラ郡の対岸でも戦闘が激しくなり、民間人の死者が出たと報告されています。

メータオ・クリニックでもLay Kay KawやMudrawで負傷した100人以上の患者さんを受け入れており、手術など高度な医療を必要とする場合はタイの公立病院であるメソト病院に転送しています。術後のケアやリハビリはメータオ・クリニックで行われ、外科病棟には銃撃により四肢の切断に至った人や頭部外傷のため意識が混濁しずっと叫んでいる人など、多くの患者さんが入院しています。私が前回滞在していた昨年半ばまでは見られなかった光景で、昨年末のLay Kay Kawでの戦闘以降このような外傷患者さんが急増した、でも国境を越えここまでたどり着けたのは幸運な人たちだけと、スタッフが淡々と話してくれました。

JAMは昨年、「クーデターおよび新型コロナウイルス感染症による危機に対する東ミャンマー緊急人道支援」として、情報産業労働組合連合、全日本自治団体労働組合、ものづくり産業労働組合の皆さまから総額8,021,213円のご支援をいただきました。支援金はメータオ・クリニックを通じ、国境周辺などに避難している方々への食糧、衛生用品、医薬品などの購入・輸送費、それらの物資を一時的に保管する倉庫の建設・維持費などに充てさせていただきます。

先日私は、メータオ・クリニックの関連医療団体がタイ側に避難してきた方々に救援物資を届ける活動に初めて同行しました。数日前の戦闘で住んでいた村を追われタイ側の森に逃れてきた人々には、想像したような悲壮感はなく、笑顔を見せてくれる方や、木で作った滑り台で遊ぶ子供たちもあり、どんな環境でも生き抜いていくというたくましさを感じました。妊婦さんや新型コロナウイルス感染症で療養中の方もいるそうで、メータオ・クリニックが送った抗原検査キットで検査が行われていました。メータオ・クリニックの外科病棟に入院しているミャンマーからの患者さんはほとんどが若い男性ですが、避難民は半数以上が子供、あとは女性と高齢者でした。クーデターさえなければ、彼らは今も一緒に故郷で暮らしていたはずで、2021年2月ミャンマーに次いで2022年2月ウクライナ。紛争の種類や背景、各国の対応は異なりますが、人間の愚かさには限りがないとつくづく思います。今回の45家族、約200人への2週間分の食料と衛生用品の費用約26万円および輸送費約16,000円は、各労働組合様からの支援金で賄われました。ここに厚く御礼申し上げます。

またJAMは、皆さまから東ビルマ人道支援として昨年5月以降に寄付していただいた総額100万円を、先日メータオ・クリニックに送金いたしました。この資金は主にLay Kay Kawからの避難民支援に充てられる予定です。ミャンマーに関する日本での報道が減った現在も息の長い支援を続けて下さる皆さまに、心より感謝申し上げます。





写真① 物資を輸送する準備



写真② 避難してきた人々の様子



写真③ 避難してきた人々の様子



写真④

物資輸送のために購入した車とともに。
右からプロジェクトマネージャーアシスタント Kleh Moo, 会計 Hser Mu Taw、ドライバー Poori、プロジェクトマネージャーアシスタント東山、プロジェクトマネージャー有高

さてご報告が遅れましたが、JAMは今年、日本NGO連携無償資金協力の枠組みで約4800万円のODA資金をいただき、「タイ国のミャンマー人移民を対象とした新型コロナウイルス感染症に関する人道支援事業」を行うこととなりました。活動内容は現地の医療機関への医療物資の提供およびスタッフ再教育、移民学校の先生、生徒やコミュニティボランティアへの健康教育・トレーニング、またパンデミックにより困窮しているタイのミャンマー人移民への医療用品、衛生用品の提供と、多岐に渡ります。外務省への申請からプロジェクトの開始まで半年を要し、規模としてもJAM史上最大のプロジェクトであり、メソトではもうひとりの現地派遣員東山と3名の現地スタッフの総勢5名、また日本の池村、田畑、佐藤など事務局も一丸となって、1年間プロジェクトを運営していきます。現在、メータオ・クリニックをはじめとした現地医療団体と協力しながら、医療物資の購入やスタッフへのトレーニングの準備を行なっている最中です。現地での物価の値上がり、最近の円安、また多彩な人々とのコミュニケーションの問題など、すでに予想がつかないことの連続ではありますが、国境の人々の力になれることを祈って、一步ずつプロジェクトを進めていきたいと思っております。プロジェクトの申請から現在までご協力いただいた関係各位の皆さまに深謝申し上げますと同時に、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※本文、写真の無断転載はご遠慮ください。

国内から

【日本事務局：沢辺美弥】

いつもご支援いただきありがとうございます。私は普段は富山県の病院で臨床検査技師として勤務しており、大学を卒業して今年で3年目になります。

今回は、最近習い始めた歌についてのお話をしようと思います。JAMの活動内容とはかけ離れているように思いますが、人が生きる上で大切な「感情」のことや「表現」といった内容は支援する立場として役に立つことがあるかもしれないのでぜひ参考にさせていただければ幸いです。

もともとは趣味が舞台・ミュージカル鑑賞で、仕事に慣れてきたためほかに何かないかと思って始めたのがきっかけです。ボイストレーニングにおいてよく用いられるのが日本のポップミュージックで、今まであまり興味がなく触れてこなかったこれらの音楽にも触れる機会が多くなりました。

以前はミュージカルの中でうたわれるような、有名な作詞家・作曲家が作り多くの歌手によって引き継がれていく歌こそが素晴らしいと思っていました。しかし、今流行りのシンガーソングライターなどが作って歌う、個性的で特定の年代や性別の人には響くが、その他の人にはあまり響かないのでは？と思えるような歌でも、作った人のエネルギーが溢れていて魅力的であることに気づきました。

どちらにせよ歌手として活躍している人は感情の振れ幅が大きくそれを表現する手段を持っている、といえます。人に伝える立場の人は、影響力を持っているのでよりよい影響を与えることが求められます。そのためにはまず自分の感情を知ることが大切です。「喜び」、「楽しみ」といったプラスの感情も、「怒り」、「悲しみ」といったマイナスの感情も吟味して最終的にはプラスの要素だけを選んで外に出します。実際に感情を表現するトレーニングを受けて「私にもこんなに感情があるんだ」と自身の感情を客観的に知ることができました。人を感動させられる表現者になるためには、歌の技法を学び、それに感情をのせて自分のものとして昇華させられることが目標です。感情のトレーニングを経てだんだんと人の気持ちも分かるようになりました。



歌を通してこれらのことを学べたことは、私にとっても大きな救いでした。学生から社会人となり、多くの人と出会う機会が増えて自分が理解できるひと、できない人とも関わることが必要になってきました。そんな中人の気持ちがわかると今まで苦手だった人も自然と受け入れられるようになり、生きるのが楽になりました。自分が楽になって余裕がでると周りの人たちに何かしらプラスの影響を与える方にエネルギーを使うことができます。

このようなマインドで、将来国際保健の道に進んだときには育った環境も、国も違う人々に対して感情を理解したり、その人たちに良いものを与えられる人間になりたいと思います。

国際保健医療協力のなかで (51)

【小林 潤】

林外務大臣がポーランドを訪問し、ウクライナからの避難民の日本への受け入れが始まった。あまりに少ない人数の受け入れであるが、早いタイミングで開始されたことは私としては嬉しく思っている。大村収容所のことは、どれだけの日本人が知っているのだろうか。1950年米軍占領下の日本のなかで日本から韓国への強制退去者を一時収容する施設として作られた。大村収容所事件として記録されているが、法務省が410人を韓国釜山に強制送還したが、125人が韓国政府によって入国を拒否され日本に送り返された。日本にもどされた移民は大村収容所に収容されたのだが、彼らは収容される根拠がないとして即時釈放を要求した。これが収容所で暴動につながり、闘争となった。現在、大村収容所は大村入国管理センターとして名前を変えているが、収容所である。多くの他国からの難民申請者等が居住しており、茨城県にある東日本入国管理センターとともに日本の入国管理センターの一つである。

この日本戦後の混乱を経て、アジアでは、1980年代ベトナム戦争が激化、ベトナムだけでなく、ラオス、カンボジアを含むインドシナ地域は戦火にまみれた。同時期にビルマ（現在のミャンマー）も混乱が続いた。当時これらの国と陸続きだったタイに難民が押し寄せ、難民キャンプが国境沿いに形成されていった。日本の保健医療分野のODA（政府開発援助）は実はこれら難民への医療支援が走りである。今回強調したいのは、同時期に日本には1万人以上のインドシナ難民を受け入れ、これらには、小さな漁船に乗って逃れてきた「ボートピープル」と言われた人も多く含まれており、大村に収容された後に日本各地に定住をはかっていった。本間浩さんの「難民問題とは何か」（1990）に、当時の日本の政策的対応について以下のように述べられている。“実は国際的視点からの難民という考え方に通じていない日本では、世界人権宣言が述べている「すべての人は、迫害から逃避を他国に求め、かつ、これを他国で共有する権利を有する（第14条）」という国際的な取り決めを受け入れる体制が法的にも政策的にもできなかったのである。それ故、多くの亡命事件の発生等に対しても、出入国管理の範囲で消極的に対処してきたにすぎない。”さらに、“インドシナ難民の受け入れを日本政府が決めたことは、ボートピープルの漂着を契機に決断を迫られたからに他ならなかった「第2の黒船」と呼ぶ人もいる。”と書かれている。

日本は島国である、国境を陸続きで接する国に比較すると難民が押し寄せるといった状況は少ないのは厳然たる事実であろう。しかし、すでに日本は40年前に難民受け入れの経験をしている。一方、入国管理局における人権侵害の問題は実は現在まで取り上げられつづけている。スリランカの女性が長期にわたって入国管理局での極めて劣悪な環境におかれ死に至ってしまった事件について、「体調の悪化を組織で共有できていなかったことや、対応にあたった職員に「人権意識に欠ける」発言があったとし、医療体制や情報共有、職員教育への取り



組みが組織として不十分」だったと報告されたのは、つい昨年のお話である。

これは政府の政策というだけでなく、日本人の多様性の受け入れに対する拒絶感が根強く影響していると私は思っている。入国管理局は単なる小さな組織であり、難民の受け入れとは政府だけでなく、地域で、それぞれの日本人が社会として受け入れ、よりよい環境をつくらないと成り立たないのは誰でもわかるだろう。もちろん日本の習慣や文化を理解してもらうのも必要であるが、我々日本人側も歩み寄らないと社会は成り立たない。LGBTの問題で、彼らにマッチョな文化を理解しなさいというのでしょうか。難民を含めて外国人に対して、言葉以上に日本のあらゆることへの適応を強く求めるだけでは成り立たない。

私自身も JAM としてミャンマーからの難民支援に取り組んでいるが、日本国内での支援の輪を作られてきた動きと積極的融合をしようと考えて、政策的にも市民活動としても行動を起こしたばかりである。ウクライナで起きている“紛争と避難民の問題”は残念ながら遠いヨーロッパの問題だけではないこと、すでにすぐ近くのミャンマーで1年も続いてしまっていること。さらに1980年代のインドシナ難民のように大量の難民が国境を超えてアジアを移動せざるえない状況になるというリスクはないとは、残念ながら言えないのが現実だろう。

編集後記

今まで校正の担当をやっていたんですが、今回から編集もさせてもらうことになりました。国内からの記事も書かせてもらい、今回は出しやばってしまいました。楽しんで読んでいただけると嬉しいです。

これからも国境の人々の力になれるよう、できることを探していきたいと思います。

次号の予定

次号は、6月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さい、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていきけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しく



は当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

